理研会報

発行
印旛研理科研究部
事務局
成田市立宝町948の1
成田小学校

学校訪問雑感

千葉県教育庁印旛地方出張所指導主事
折目庫雄

一、二学期、そして三学期の今も各学校の研修のお手伝いをさせていただいて、楽しいことがいくつかあります。

その一つは、子どもたちの生き生きとした姿や良い点をお知えになったことなどを考えに接することができる楽しみです。二酸化炭素の量さの学習で「空気にも重さがあるのかな?」と言った子どもまで、優れたり、あるいは素朴であったり、とにかく予想外の発言にぶっつかることがとっても楽しいことです。子どもたちは天才だ、詩人だ、と言われるのがわかる気がします。

もう一つは、それらの子どもを迎え打つ先生方のいろいろなアイディアを見せていただける楽しみです。どの授業にもその学級なりのアイディアがたっていますが、その一部を「低学年のアイディア集」として本会報に特集していただいたのでご承知のことと思います。

最近いただいた二つのアイディアを考えてみたいと思います。

一年生の磁石の学習で「きょうは、この部屋をジャングルだと思って探険してみよう」と活動に入りました。こういうスタイルの活動は決して珍らしくはありません。私は探険という言葉にすばらしいアイディアを感じたのです。というのは、子どもにとって理科学習は未知の自然への探険です。たから、磁石に絡いて「ひかげとひなたの探険」もできるでしょうし、「花壇の探険」だって、「石ころの探険」だって成立ちます。一連の探険遊びを企画することができるではありませんか。

「かっこうだけまとめても…」と思われるかも知れませんね。私はこれが大切だと思うのです。というのは、単元が違うと、対象とする自然が変わってきます。子どもたちも先生も、二年生の電気はおくれでこの作業がなされる訳であります。

年頭のご挨拶

研究部長　穴澤征治

明けましておめでとうございます。

暖かなよいお正月で、さぞや良い年をお迎えになったこととおじます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、昭和五十三年度も年が改まりますと残りが少なくなる感がひとしおでございますが、この号の出る頃は先生方には学年末の最後の学習指導に、また、年度末の評価準備にと多忙極まりない時期と存じます。

今年度は、改訂指導要領の移行期に当りました(小学校)また引続いて実施前年に今年は入る訳であります。中学校においても一年生の三年生の豆電球までは使えない、とすぐ考えてしまいます。たしかに回路という考え方や、電池の極はそうかも知れません。しかし、つかない豆電球をたんねんに調べるとか、工夫や努力をして灯台に灯をともす、とかはどんなに対象が変わろうとも、たえず伸ばしていかねばならぬ力でしょう。すべてのへといえるかどうかは別としても)単元を通して伸ばしていかなければならない能力や態度を、「探険家」として集約できるのではないでしょうか。探険家は自分やまわりの人が危険にならないように注意しているんだよ。となれば安全教育ですし、探険家は探険のたびに新しい発見をするんだよ。(もちろん自分だけの発見でも良いわけです。)と指導し、毎時間の活動の中で「先生、きょうぼくこんなこと発見したんだよ。」と言ってくれるようがどんどん出てくれれば、すばらしいと思いませんか。

〝理科的な子どもを作る〟とはよく言われる言葉ですが、それは子どもたちの目標にはなりません。「良い探険家」という言葉で、それぞれの先生方の教育の成果としてうけとめさせていただき、感謝にたえないものがあります。

県と関連する行事は五十四年度も引続きありますので、理科の印旛の名声がより一層高まることを期待いたしたいものであります。

五十四年度も定期総会で研究部としての行事や仕事を会員各位と一緒に相談して計画し、実践していこうは、もっといろいろな物が入っていたことです。セロテープ、糸、のり……。

新指導要領では、製作教材が多くなります。その度に先生が頭えてあげたのでは大変ですね。今までの学習の集積としてそんな道具箱が個人に用意してあったらどんなものでしょうか。理科活動の七つ道具です。(もちろん七つとは限りません)。虫めがね、磁石、ゴムねん土、針金、虫ピン……。そんなものを駆使して、工夫したり、調べたりしていく子ども達を想像するだけでも楽しくすばらしいではありませんか。それとも、単なる初夢なのかな。

戸外の陽だまりに花冠は四裂した空色で濃いたてすじのある直径五~六ミリの小さな花をみつけました。よくみると花の柄が葉のえきに単生し長さが一~一五センチあり、とてもきれいな花で香を感じさせてくれました。

牧野図鑑で調べてみると「オオイヌノフグリ」とありその花の解説の後に「フグリ」と名付けられた由来が記してあり「なるほど……」と感じするとともにものをよくみる心しの大切さを教えてくれたような気がいたしました。

新しい指導要領でも、自然を大切に、よく見つめていこうとする心を育てる主旨がみられます。

私たち自身もっと戸外の自然に親しみ、語りかける機会を多くする必要を感じました。(YS生)